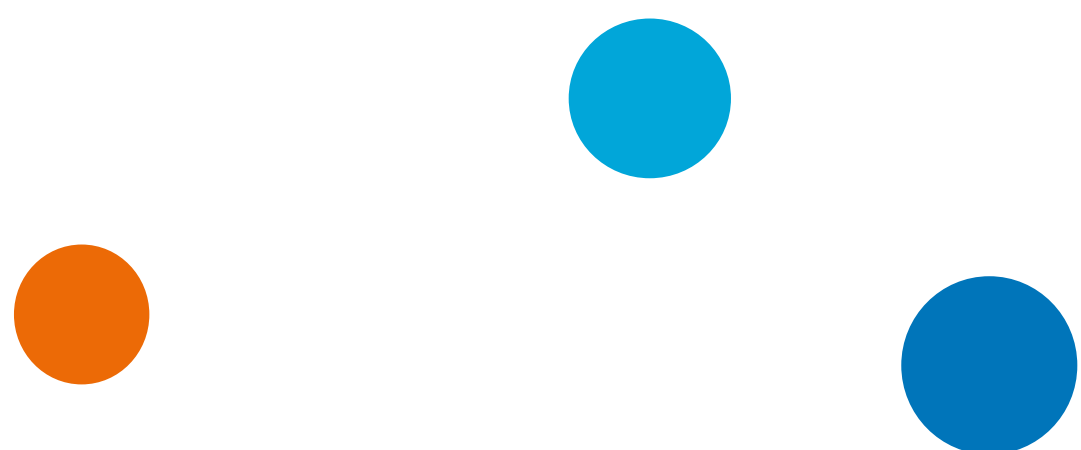




平成30年度 奈良教育大学 ESD-SDGs コンソーシアム

全国版ESDティーチャープログラム概要



近畿 ESD コンソーシアム／

奈良教育大学 ESD-SDGs コンソーシアム

はじめに ESDティーチャープログラムとは

奈良教育大学次世代教員養成センターでは、平成 27 年度日本／ユネスコパートナーシップ事業において公募された「ネットワークを通じた ESD（持続可能な開発のための教育）の推進等ユネスコ活動の普及・促進及び ESD に関する調査研究」事業の一つである「（５）教員研修プログラムのあり方に関する調査研究」を受託し、ESD に取り組む教員に求められる資質・能力について調査研究を行いました。その調査結果をもとにして開発した研修プログラムが、「ESD ティーチャープログラム」です。

近畿 ESD コンソーシアムでは、毎月のように教員が集まり、学生や研究者と共に、ESD の理論を学び、指導案・実践事例を検討してきました。この「ESD 連続セミナー」という研修プログラムが始まって、8 年になります。

8 年前から変わらず大切にしていることは、先輩について学ぶこと、そして互いの実践を“とことん”話し合うこと、です。時には正解がない問題を取り上げる ESD においては、子ども同士の対話が不可欠です。そして、それは我々 ESD 実践者も同じではないかと感じています。

ESD の実践者を育成する、とはこうした学び合える文化を大切にした教員チームを作ることなのかもしれないという思いからこのプログラムは生まれています。そのような教員の学びの場をつくってくださった各地のリソースパーソンの皆様と意欲的に参加してくださった皆様に深く感謝申し上げます。

ぜひ、参加者の皆様には、今年度で終えることなく、各地で教員チームを形成して学び続けてほしいと思っています。また、次年度も共に学び合う仲間を募ってまいりたいと思います。

1. プログラムの流れ

ESD に関する理論と実践力の両方を身に付けるために、単発的な研修ではなく、系統的・継続的な研修を構成しています。【研修Ⅰ】では、各地域の実態に合わせて SDGs の概要を捉え、【研修Ⅱ】では、複数の講師から様々な視点で ESD を学びます。最後に【研修Ⅲ】では、自身が作成した指導案を検討し合うことで、実践力を養います。

【研修Ⅰ】SDGs セミナー（30 名程度）

参加費無料

～明日から使える！ESD の基盤となる授業・学級づくりの講演

・ESD 有識者を講師に招いて、先進的な取り組みや新学習指導要領と ESD の関わりなど多様な視点からアプローチ。環境教育、国際理解教育から、学級づくりまで…テーマは地域の実態に合わせて！

宮城県仙台市

6月2日
宮城教育大学
附属小学校

東京都

6月30日
NATULUCK
神田北口駅前店

長崎県長崎市

7月22日
長崎県立勤労
福祉会館

北海道羅臼町

7月24日
羅臼町公民館

奈良県広陵町

8月31日
広陵町
かぐや姫ホール

1) SDGs セミナーのみの参加も可能

2) ESD ティーチャープログラム（35 歳以下の教員 先着 10 名程度）

～SDGs・学習理論・ファシリテーション・事例検討・

教材開発をセットにした密度の濃い 2 日間の研修プログラム！

（内容）SDGs の理解促進、ESD の理論（能力・態度）、ESD の理論（ファシリテーション）、先進地での実践事例分析・検討、ESD 教材開発。

（参加者）35 歳以下の教員、教員志望の大学生または高校生（同じ学校からの複数参加も大歓迎）

参加費無料
（宿泊費が必要な場合は自己負担。）

宮城県仙台市

8月10.11日
宮城教育大学
（予定）

東京都

8月2.3日
東京ウィメンズ
プラザ

長崎県長崎市

8月23.24日
長崎市内

北海道羅臼町

8月6.7日
羅臼町
郷土資料館

奈良県広陵町

9.10.11月頃
広陵町役場

2 日間のプログラム終了後、指導案を各自作成

2) ESD ティーチャープログラム 事後研修（ESD ティーチャーとして認証）

～作成した指導案を持ち寄って検討し合うことで、ESD 実践力を高める 120 分。

夏休みに集まったメンバーが、自身が作成した指導案を持ち寄り、互いにねり合うことでより良い指導案、授業づくりへと近づけます。日程は参加者間で相談。（10～11 月ごろの予定）

宮城県仙台市

東京都

長崎県長崎市

北海道羅臼町

奈良県広陵町

3) 奈良教育大学での ESD コンソーシアム実践報告会（12 月 26 日）

～各会場の優良実践を実践報告

- ・優良実践を報告し合うことで、他府県の優良実践に学ぶ。
- ・ユース間の全国的なつながりを深める。

2. 【研修Ⅱ】ESDティーチャープログラム 実施内容

【研修Ⅱ】では、各地のリソースパーソンから、地域の実態に根差した理論を学びます。今年度実施した4つの研修内容と、参加者のふりかえりを紹介します。

SDGs 理解

地球的諸課題と、
ESD の歴史や広がり
について学ぶ

【北海道会場】大森亨氏（元北海道教育大学）

【宮城県会場】見上一幸氏（前宮城教育大学学長）

【東京都会場】及川幸彦氏（東京大学）

【奈良県会場】河本大地氏（奈良教育大学）

【長崎県会場】石丸哲史氏（福岡教育大学）

SDGs とは、2015 年に国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標；Sustainable Development Goals」の略称です。

ESD を実践する上で、SDGs のように世界共通の課題を捉えることには、大きな意味があります。しかし、一方で課題を理解させればよいというものでもありません。持続可能な社会の担い手としての価値観と行動の変革を目的とする ESD においては、子どもたちが自分の身近な地域をつぶさに見て、課題を発見し、解決していくことを通して、自分の生き方を見出していく必要があります。そのくらしの先に、SDGs が位置付けられることが重要になります。

（参加者の声）具体的な事例を見せてもらいながら学ぶことで、「自分事」として課題と向き合うことの大切さや教育の役割を学ぶことができた。〇〇教育の一つではない包括的概念として ESD を捉えること、グローバルとローカルを往還することの意味について、深く学ぶことができた。



（参加者の声）他の参加者の方々の ESD の考え方を聞くことができとても興味深かったです。しっかりとした長期的なカリキュラムマネジメントができてこそ、ESD の視点に立った授業を展開することができるのだと感じました。まずは教科の授業で実践していきたいと思います。

ESD で育みたい能力・態度

見方・考え方を働かせて育成される
ESD の資質・能力

【北海道会場】金澤裕司氏（羅臼町教育委員会）

【宮城県会場】市瀬智紀氏（宮城教育大学）

【東京都会場】大西浩明氏（奈良市立飛鳥小学校）

【奈良県会場】大西浩明氏（奈良市立飛鳥小学校）

【長崎県会場】安田昌則氏（大牟田市教育委員長）

新学習指導要領では、見方・考え方を働かせることで、主体的・対話的で深い学びが実現されると言われています。では、ESD における見方・考え方とは何でしょうか。その見方・考え方を働かせて、どのように子どもたちは身近な課題や持続可能な未来について思考していくのでしょうか。これから先行き不透明な時代を生きる子どもたちに育みたい力について、その指導方法と共に学びます。



（参加者の声）ESD で育みたい能力・態度といわれると、何か特別なことをしているのではないか？と思い込んでいたが、これまでの指導や支援のやり方を少し変えるだけで実現できそうな気がして安心した。しかし「見方・考え方」「資質・能力」「価値観」といったものは、独自のものも含まれているので、その部分を深く学んでいないと指導があらゆるものになってしまうと感じた。

（参加者の声）ESD が新学習指導要領でどのような位置づけにあるのかについて、体系的に知ることができました。“どのように未来を考えていくのか”という問いは私の専門の国語教育においても考えるべき価値観だと思うし、生徒たちには、教科を越えて伝えるいかなければならないと感じます。今、求められている「主体的・対話的・深い学び」を実現していく授業はとても難しいものですが、ESD の観点はそれを実現する重要な力ギになるなあと感じました。



ESD ファシリ テーション

ESD における
主体的・対話的な
授業づくり。

【北海道会場】河野晋也（奈良教育大学附属小学校）

【宮城県会場】河野晋也（奈良教育大学附属小学校）

【東京都会場】手島利夫氏（元江東区立八名川小学校長）

【奈良県会場】植島佳子氏（元奈良市立都跡小学校長）

【長崎県会場】大西浩明氏（奈良市立飛鳥小学校）

ESD を実践していくためには、何を学ばせるかだけでなく、どのように子どもたちが学んでいくかを教師が知っておく必要があります。「こうしなければダメだ」といくら言われても、自発的な行動は生まれません。子どもたちが自分で気づき、心を揺さぶられ、何とか解決したいと、主体的に動き始めることが ESD には不可欠です。授業者は、こうした子供の学びのプロセスに目を向けて、実践していく必要があります。

（参加者の声）“ファシリテーション” …と言われると、少し後ろ向きな思いをもっていました。が、ESD の学び方を取り入れていくこと、そして学級経営がもととなって、子どもの気づきや思いをつなぐ授業ができるようになるのだなあと思いました。今年度は研修で学んだ授業づくりをして、ESD に取り組みたいと思っています。やってみよう！と思えて、自分がうれしかったです。



（参加者の声）ESD を意識した取り組みの中で一番大切なことは、生徒も教師自身も自分ごととして、考えることだと思った。「いかに生徒が自分事として考えさせ、自ら学ぶようになる授業を構想していくか」…生徒が意欲的に学ぶために、まず私自身が様々な事象を ESD の視点で見たい。

実践事例検討

具体的実践をもと
に検討し合うこと
で、“授業を見る目”
を養う。

【北海道会場】ワークショップ

【宮城県会場】ワークショップ

【東京都会場】ワークショップ

【奈良県会場】ワークショップ

【長崎県会場】ワークショップ

講義だけでは、ESD 実践者の力量は身につけません。具体的な事例と共に学ぶことで、それまでの広義についてより明確にイメージすることができます。先行実践事例を検討し合い、SDGs 理解、能力・態度、見方・考え方、価値観といった様々な視点で参加者が相互の意見を交わすことで、ESD 実践を見る目と、実践の工夫を学びます。



（参加者の声）ESD については全く無知な状態で本研修に参加したので、ESD の概要や視点、育みたい能力や価値観について、わかりやすく話していただき、とても有意義でした。「牛乳パック、どことる？」のお話のように、ESD の視点に立った授業を計画的に長期的に実践していくことで、価値観や行動が変容していくのだと感じました。



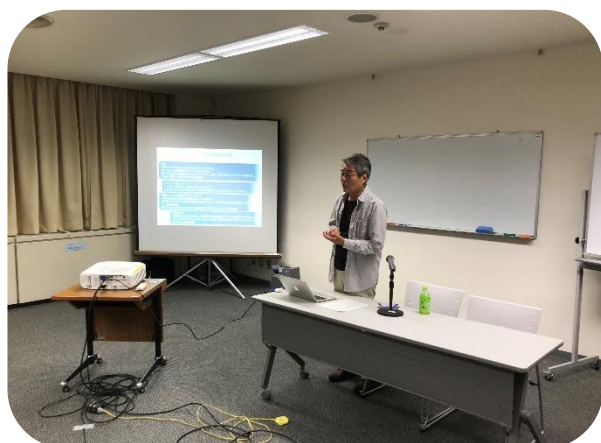
（参加者の声）世の中にあふれている人、モノ、の中に題材が隠れていることに気づきました。いかに、自分が見えている世界が狭いのか、実感しました。この2日間で自分の見えている世界が少し広がったようにおもいます。これからも視野を広げていけるよう努力します！！

3. ティーチャープログラム事後研修 実施内容

指導案検討

学びを生かして、
実践する

従来の研修スタイルでは、新しい知見を得たり、他の先生の工夫を取り入れたりすることはできますが、最も私たちに求められるのは、自分で授業を作る力だと思います。このプログラムでは、4つの研修を踏まえて各自で指導案を作成し、後日持ち寄って検討し合います。自身の指導案に対して他の参加者やリソースパーソンから貴重なコメントを得るだけでなく、他の先生の指導案について対話を行うことで、自身の実践力を磨きます。



指導案検討会には、【研修Ⅱ】参加者だけでなく、ESD 研究者や先輩実践者もお迎えし、学校実践と ESD 研究とを関連付けたり、先輩実践者からのアドバイスを受けたりするなど、質の高い検討会となりました。

4. 近畿 ESD コンソーシアム 成果発表会・実践交流会

本年度の成果発表の場として、各地の開催地から参加者が指導案・実践事例を持ち寄り、成果発表会において 18 本の報告会を行いました。いずれも力が入った実践で、多くを学び合う機会となりました。次年度以降は、参加者同士がつながり、継続的に ESD 実践を学び合い、深めていく場を形成して下さることを期待しています。



平成 30 年 12 月 26・27 日
奈良教育大学

主催：近畿 ESD コンソーシアム、
奈良教育大学 ESD-SDGs コンソーシアム
後援：ESD 活動支援センター、近畿 ESD 活動支援センター

全体会



ESD 子どもフォーラム



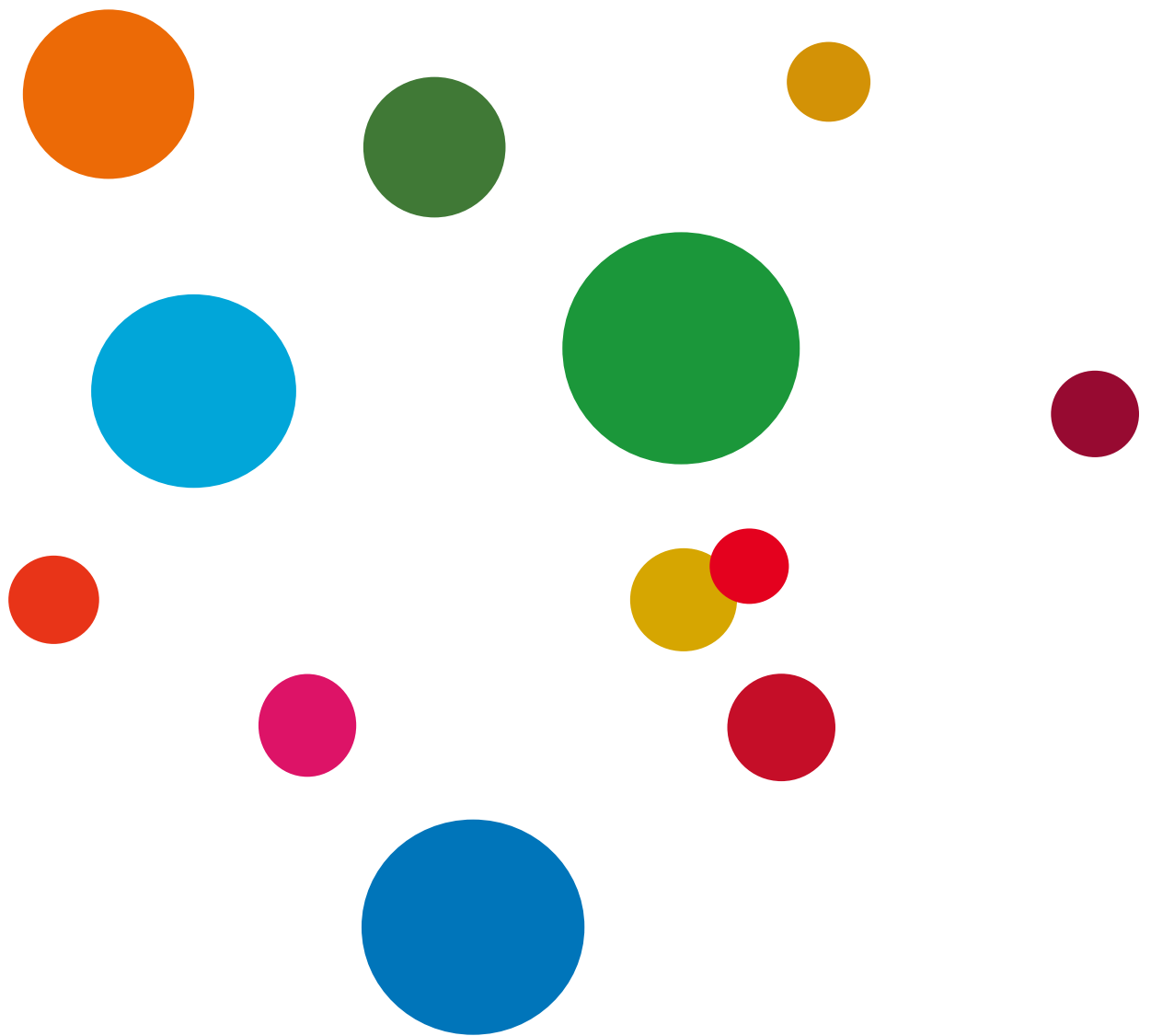
ESD ティーチャープログラム参加者による実践報告



<参加申し込み・問い合わせ>

奈良教育大学次世代教員養成センター 中澤静男
奈良教育大学附属小学校 河野晋也
奈良教育大学 教育研究支援課 ESD 事務担当：中城、池田
TEL：0742 (27) 9367 FAX：0742 (27) 9147
Mail：k-soumu@nara-edu.ac.jp
WEB：http://kinkiesd.xsrv.jp/





平成30年度 ESD ティーチャープログラム 概要

近畿 ESD コンソーシアム／奈良教育大学 ESD-SDGs コンソーシアム
発行：2019年2月